

学校評価について

(1) 本年度の学校評価

本年度の 重点目標	・生徒の能力や持ち味を最大限に伸ばし、伸び率No.1の学校の実現を目指す。 ・生徒の自己肯定感や自己有用感を高めさせ、満足度No.1の学校の実現を目指す。 ・誰もが誇りを持てる学校教育活動を推進し、“MAKE DRAMA”な学校の実現を目指す。 ・学校生活におけるワクワクな学びをととして、学びの充実と進路実現を目指す。		
項目（担当）	重点目標	具体的方策	留意事項
式典行事と防災 （総務部）	・学校への帰属意識の向上	(1)式典・各種集会の円滑な実施	(1)式典・集会を円滑に実施する。
	・防災意識の向上	(2)防災意識を高めるための工夫	(2)迅速な安否確認の方法の構築と、地域と協働した防災の実践をする。
	・同窓会活動の推進	(3)同窓会活動の充実	(3)本校創立50周年に向けて、同窓会と十分な連携を図る。
学習指導 （教務部）	・個別最適な学びと協働的な学びの実現	(1)ICT を効果的に用いた学習の実施	(1)1人1台配備された生徒用タブレットの効果的な活用を図る。
		(2)「総合的な探究の時間」の充実	(2)「総合的な探究の時間」を通して、地域とともにある学校創りを実現する。
生活指導 （生徒指導部）	・基本的生活習慣の確立と社会性を育む生徒指導	(1)生活リズムの確立	(1)安易な欠席・遅刻を減少させる。
		(2)「講話」「各教室」等の充実	(2)自ら規範意識や危機管理能力が高揚できるようにする。
		(3)生徒アンケートの活用	(3)アンケート結果をもとに、生徒とのコミュニケーションを図る。
		(4)学校いじめ防止基本方針に基づいた、いじめ防止対策への取組	(4)校内組織及び外部機関との連携を図り、いじめ防止対策を推進する。
進路指導 （進路指導部）	・多様化する入試に対応する適切な進路指導	(1)学力向上を目指すための継続的なシステムの構築	(1)外部模試をより一層有効に活用する方法を探る。
		(2)「総合的な探究の時間」を通じた進路探究活動	(2)それぞれの学年に応じた課題を見据え、生徒が主体的に関われる活動を工夫する。
		(3)夏季休業中の高大連携や保育・看護体験実習への積極的な参加の呼びかけ及びキャリア教育の充実	(3)新型コロナウイルス感染症拡大防止に努めながら、可能な限り実施していく。その際、事前指導・事後指導の充実を図る。
生徒会及び部活動 （特別活動部）	・生徒の手による学校づくりの推進	(1)学校祭のさらなる質的向上	(1)昨年までの学校祭拡大期を踏まえ、取り組み内容の洗練化を進める。
		(2)生徒の手による部活動環境の向上	(2)生徒が部室環境、練習設備、練習道具などを大切にしよう、一斉整備日などを設ける。
		(3)生徒による情報発信の推進	(3)学校アピールの場で生徒が多く活動することを発信し、本校の魅力を伝える。
保健・環境美化 （保健厚生部）	・教育相談活動の推進 ・健康管理活動の充実 ・学校環境の点検と整備	(1)教育相談活動の充実	(1)教育相談係・SC・学年会との連携の強化と相談室利用の活性化を図る。
		(2)保健調査、健康観察の有効活用	(2)生徒の心身の健康問題への配慮と健康観察実施の徹底、保健指導の充実を図る。
		(3)清掃点検、安全点検の徹底と保健美化委員の活動の活性化	(3)各点検の実施と充実した保健美化委員活動を通して、学校全体の環境整備に対する意識向上を図る。
勤務時間の適正管理と教職員の健康障害防止 （安全衛生委員会）	・勤務時間の適正管理	(1)在校時間等の状況記録の集計結果の確認と分析	(1)在校時間等の状況記録の結果を確認し、業務の適正化を図る。
	・教職員の健康障害防止	(2)教職員のストレスチェックの結果の確認と分析	(2)定時退校日・学校閉庁日を効果的に設定する。 (3)衛生管理医と連携し、教職員の健康状態を把握する。
学校関係者評価を実施する主な評価項目		ア 教育課程や指導方法の研究と授業改革・授業改善を通して、生徒の思考力、判断力、表現力や主体的に学ぶ態度の育成ができたか。また、分掌・学年・委員会 が連携して生徒の状況を共有し個別指導の最適化が図られたか。 イ 学校行事や部活動、ボランティア活動等に積極的に参加できる環境を整え生徒の 自己肯定感・自己有用感を高めさせることができたか。 ウ 学習活動の充実を図り、生徒が目標とする進路実現につなげることができたか。 エ ワークライフバランスに配慮し、明るく活力に満ちた協力的な職場環境を維持す ることができたか。	

(2) 前年度の学校評価

ア 自己評価結果等

前年度の 重点目標	・生徒の能力や持ち味を最大限に伸ばし、伸び率No.1の学校の実現を目指す。 ・生徒の自己肯定感や自己有用感を高めさせ、満足度No.1の学校の実現を目指す。 ・誰もが誇りを持てる学校教育活動を推進し、“MAKE DRAMA”な学校の実現を目指す。		
項目（担当）	重点目標	具体的方策	評価結果と課題
式典行事と防災 (総務部)	・学校への帰属意識の向上	(1)式典・各種集会の円滑な実施	他分掌と連携し、2会場での集会を円滑に行うことができた。放送設備の充実を図りたい。
	・防災意識の向上	(2)防災意識を高めるための新たな取組	津島市と協力した防災訓練を実施することができた。全校生徒の安否確認については、より良い方法を検討していきたい。
	・同窓会活動の推進	(3)同窓会活動の充実	同窓会総会を円滑に開催することができた。
学習指導 (教務部)	・個別最適な学びと協働的な学びの実現	(1)ICT を効果的に用いた学習の実施	「あいちラーニング推進事業（重点校）」として、ICTを活用した主体的・対話的で深い学びの実現について研究を行った。校内での研究に留まらず、尾西地区の高校の教員を招いて研究授業・研究協議を行い、研究の成果を還元することができた。
		(2)「総合的な探究の時間」の充実	今年度も、1年生で職業人インタビューや地域探究学習等、地域と連携して充実した活動を展開することができた。
生活指導 (生徒指導部)	・基本的生活習慣の確立と社会に役立つ人間の育成	(1)生活リズムの確立	昨年度より遅刻総数が増加した。遅刻・欠席を含めて、基本的生活習慣の確立を図りたい。
		(2)規範意識の向上と危機管理能力の育成	「スマホ教室」「交通安全講話」「人権講話」「薬物乱用防止教室」を開催し、生徒への意識付けはできた。
		(3)学校いじめ防止基本方針に基づいた、いじめ防止対策への取組	教員へのいじめ防止対策「取組評価アンケート」の結果は概ね良好であった。
進路指導 (進路指導部)	・教員数、生徒数の変化に対応する適切な進路指導	(1)学力向上を目指すための継続的なシステムの構築	外部模試の結果を分析し、各教科で課題を見つけることができた。
		(2)「総合的な探究の時間」を通じた進路探究活動	修学旅行を利用して、他県の大学を訪問することができた。生徒が主体的に調べることで、進路意識を高めることができた。一方で、もっと進路に関する時間を割けると良かった。
		(3)夏季休業中の高大連携や保育・看護体験実習への積極的な参加の呼びかけ及びキャリア教育の充実	高大連携事業と保育実習には参加することができたが、コロナの拡大に伴い、看護体験については、希望者がいたにもかかわらず中止になってしまった。
生徒会及び部活動 (特別活動部)	・生徒の主体性伸長を意識した指導	(1)文化祭・体育祭の定着	中学生を対象とした文化祭招待を初めて実施し、生徒の手によって運営することができた。
		(2)部活動環境の向上	在籍生徒減少による予算的影響を低減させ、部活動共用の物品の充実を図ることができた。
		(3)部活動実績の対外的発信	学校案内やホームページを刷新したり、新聞社やケーブルテレビ局を通じて情報発信を行うことができた。
保健・環境美化 (保健厚生部)	・教育相談活動の推進	(1)教育相談活動の充実	毎週実施している担当者会議での情報交換により、早期発見対応につなげることができ、加えてSCの利用が必要な生徒、保護者への呼びかけもできた。
	・健康管理活動の充実	(2)健康観察の有効活用	毎朝の健康観察により、生徒の健康状態を把握し、対応することができた。
	・学校環境の点検と整備	(3)清掃点検、安全点検の徹底と保健美化委員の活動の活性化	毎月実施した安全点検により、施設の維持管理が適切にできた。保健美化委員の活動も昨年度と同程度実施することができた。
勤務時間の適正管理と教職員の健康障害防止 (安全衛生委員会)	・勤務時間の適正管理	(1)在校時間等の状況記録の集計結果の確認と分析	月当たりの時間外勤務が80時間超となった教職員の割合は、前年度2.7%から本年度1.4%となり、縮減することができた。次年度に向けては、分掌業務のグループ化の効率性を高めることでいっそうの時間外勤務時間縮減に取り組む、
	・教職員の健康障害防止	(2)教職員のストレスチェックの結果の確認と分析	前年度と同じく、ストレスチェックにおける本校の総合健康リスクは全国平均と比較して低い状態にある。

総合評価	・新学習指導要領の実施に伴う新しい教育課程の下、様々な教育活動、学習指導に取り組んだ。特に、各学年で総合的な探究の時間の充実を図ったり、第2学年で現地集合方式の探究型の修学旅行を行ったりして、生徒の思考力・判断力・表現力や主体的に学ぶ態度の育成を目指した。 ・津島市並びに経間地区自主防災会と連携しての防災教育、中学生体験入学を兼ねた文化祭の中学生向け公開、神守中学校での学習支援ボランティア、第1学年生徒による神守地区3小学校への出前授業、神守コミュニティ主催のラジオ体操への参加など、数多くの場面で地域連携を図ることで、生徒の自己肯定感や自己有用感を醸成させることができた。 ・あいちラーニング推進事業重点校（2年目）としてICTを活用した授業研究を進めたり、尾西地区特別支援教育コーディネーター研修会主管校（1年目）として各校教員とともに特別支援教育並びに教育相談に関する研修を行ったりすることにより、教員個々の資質向上を図ることができた。 ・生徒対象の「生徒アンケート」を実施し、生徒が抱える悩みや問題の把握に努めている。また、教員対象のいじめ防止対策「取組評価アンケート」を実施し、教員自身にも人権意識についての自己点検を図っている。アンケート結果からは、いじめを許さない、人権意識の校風が維持されている。 ・高大連携事業や保育実習などコロナ禍以前に行っていた体験型のキャリア教育を徐々に行うことができるようになってきた。これによって生徒の進路意識を向上させることができた。 ・教職員のメンタルヘルスは良好である。月当たりの時間外勤務が80時間超となる教職員をゼロにすることはできなかったが、割合としては前年度よりも縮減させることができた。
------	--

イ 学校関係者評価結果等

学校関係者評価を実施した主な評価項目	ア 教育課程や指導方法の研究と授業改革・授業改善を通して、生徒の思考力、判断力、表現力や主体的に学ぶ態度の育成ができたか。また、分掌・学年・委員会が連携して生徒の状況を共有し個別指導の最適化が図られたか。 イ 学校行事や部活動、ボランティア活動等に積極的に参加できる環境を整え生徒の自己肯定感・自己有用感を高めさせることができたか。 ウ ワークライフバランスに配慮し、明るく活力に満ちた協力的な職場環境を維持することができたか。
自己評価結果について	・体験入学やボランティア活動等で活躍している在校生の姿は、地域の中学生や住民から好意的に受け止められている。 ・教育活動におけるICT活用、学校祭（体育祭・文化祭）の活性化、中学校との部活動交流、令和5年度からの新制服採用などの学校変革のための新たな取組は、地域からも評価されている。 ・ICTを活用した授業が積極的に行われている。授業の様子から、生徒の学習意欲が喚起されていることが分かる。
今後の改善方策について	・授業内でのプロジェクター活用が進んでいるなか、照度など学習環境衛生への配慮もお願いしたい。
その他（学校関係者評価委員から出された主な意見、要望）	・特別な支援を必要とする生徒が一定数存在するという前提のもと、意識的な言葉かけや適切な支援が求められている。 ・基本的生活習慣の確立、規範意識の涵養は大切である。指導の意義を生徒に理解させることが求められている。 ・遅刻総数が増加したことについては、その要因を突き止め改善する必要がある。
学校関係者評価委員会の構成及び評価時期	・構成・・・学校評議員5名、PTA副会長2名 ・評価時期・・・令和5年1月31日（金）